

令和4年度 学校法人静岡理工科大学 静岡北中学校・高等学校 自己評価・学校関係者評価

どのような学校を目指すのか		校訓「質実剛健」「創意実践」をもとに社会に貢献する人材の育成をはかる。			学校関係者評価								
基本方針		1 健全な運営体質を維持するために定員生徒数を獲得する。 2 静岡北中高21世紀型教育プログラムを通して、生徒一人一人の基礎を育む。 3 総合学園である法人の力を最大限に発揮し、社会の変化に対応する。 4 SP×P教育とGlobal教育を展開する。 5 進路実績の向上を図る。											
令和3年度の成果と課題		令和4年度重点目標	令和4年度重点施策	状況	※評価は、以下の基準に従い、各項目ごとに5段階で客観的に評価してください。								
令和3年度重点目標 ◎「入学者定員の獲得」 募集活動の見直しを行い、募集活動を展開したが目標値を達成できなかった。 ◎「ディープ・アクティブラーニング、ICT教育、グローバル教育、SSH3期指定校、課題研究の充実」 昨年度の実績を検証し、ディープアクティブラーニングを用いた授業を展開した。コロナ禍で引き続き制限がある中、ICTを有効活用し、オンライン授業や海外姉妹校との交流、研究成果の発表を展開した。また、第3期SSHの指定校としてWeb上で国際連携活動を行った。課題研究においては、生徒の好奇心を大切に主体的なテーマ設定を行う事ができた。 ◎「法人内各学校との連携を深める」 法人内各学校との連携でも課題研究を取り入れ、好奇心をきっかけに自ら学ぶ姿勢を多くの生徒が持てたことは大きな収穫であった。		◎入学者定員を獲得する。 ◎学園力・組織力を集結し、教師力を高める。 ◎静岡北中高21世紀型教育プログラムを展開する。 ◎課外活動の充実を図る。 ◎評価される進学実績をあげる。 ◎新北高を創る。 ◎感染症対策の徹底を図る。	◎生徒一人ひとりが成長ストーリーを描ける広報の展開 ◎教職員が学び続け、時代に対応したスキルをつける ◎基礎学力+人間力+αの力を育む教育プログラムの展開 ◎生徒主体的参加型課外活動プログラムを構築する。 ◎きめ細やかな進路指導と大学入試への対応 ◎未来を見据えた学科やコースの検討を行う。 ◎新型コロナウイルス対応等の危機管理徹底	継続 継続 継続 達成-継続 継続 継続 達成-改善継続	5 : 最も良好 4 : ほぼ良好 3 : 普通 2 : やや不良 1 : 不良								
評価項目	具体的目標	具体的方策等	自己評価		成果・次年度への主な課題	学校関係者評価							平均
			評価	平均		評議員A	評議員B	評議員C	評議員D	同窓会	教育関係者	地域住民	
総務部	感染予防を徹底しながら、新しい形の行事・募集活動を実施し、選ばれる学校となる。	各行事の時期・方法を吟味し、安全に配慮し最適化を図った。生徒の満足度も高かった。	4	4.0	コロナと共に歩んだ3年間を検証し、改善・工夫を加えた点を活かして次年度につなげたい。	5	4	5	5	4	5	4	4.5
	安全・校内美化にきめ細かい配慮を行い、生徒教職員が落ち着いて教育活動が行える環境づくり。	常任委員会・朝礼などで情報を共有し、生徒に伝わる伝達の仕方共有した。	4		生徒の意識の高まりを踏まえ、生徒主体の活動を更に活性化できるように啓発を行う。	4	5	4	5	4	5	4	
総務課	状況に応じて、適切に式典・行事を実施する。	通常の形、分散、オンラインなど適切な状況把握の下、実施することができた。	4	4.0	様々な方式・ノウハウを得ることができたので、単にコロナ前に戻すのではなく、最適な形を模索したい。	4	5	5	5	4	5	3	4.4
	防災意識を高め、非常時に備える。	災害時に学校周辺の災害復旧活動を教職員自で行い、地域との連携を深めた。生徒への啓発にもつながった。	4		希望者を対象に実施した防災セミナーを、全校に広げ、自ら考え行動する姿勢を育む。	4	5	4	5	4	5	4	
入試広報課	募集定員を確保する。 (R4年度入学者425名/定員440名)	他校にない本校の長所・売りを伝えるための対応マニュアルを作成し、共通認識の下、積極的に広報を行った。 いつでも個別相談に応じる体制を整え、受験生・保護者に対面で魅力を伝え、不安・疑問の解消に努めた。	2	2.0	入口・中身・出口の繋がりを再確認し、その中で教員一人ひとりがどのように貢献すべきかを自覚する。 個別相談に応じることができる教職員を増やし、誰もが適切な対応ができる体制を整える。	2	3	3	4	4	4	3	3.3
施設管理課	安心・安全な環境づくり。	生徒会の委員会活動を通じて、備品点検を行い、備品を大切にすることを培った。	4	4.0	生徒の気づきを活かす体制をさらに構築する。	3	4	4	5	4	5	4	4.1
		日頃からの個々の点検と、行事前の細かな確認を通じて、不備が放置されることがないように定期的に点検を行った。	4		グラウンド・体育館・親和館など特定の教員が管理している場所も多く目で確認・点検を行う。	4	4	4	5	4	5	4	
図書課	蔵書の充実を図り、自主的な読書や学習等の図書館活用の推進を図る。	生徒の要望・本の購入希望に耳を傾け、新刊を積極的に購入した。	4	4.0	デジタル教材の活用環境を整え、その拠点となるようにする。	4	4	4	4	4	5	4	4.1
	図書館運営を円滑化し、時代に応じた多岐にわたる活用を行う。	既成の概念に捉われないこと、ミーティングの場、英会話などのレッスンの場、やすらぎの場として、生徒の良き居場所となるよう施設を開放した。	4		図書委員会を中心に、生徒中心の図書館運営を推進する。	4	4	4	4	4	5	4	
教務部	コロナ感染症対策の徹底を図りつつ、教育活動を可能な限り実施する。	従来の学校行事ができる限り可能となるよう、他の部とも協力しながら調整を行った。	4	4.0	来年度は全ての学校行事を実施し、生徒に生き生きとした学校生活を送らせたい。	4	4	4	5	4	5	4	4.3
		将来を見据え、新学科の検討やコースの見直しなど、新たな教育プログラムを提案した。	4		課題を一つずつ解決し、より具体的な案をまとめた。	4	4	4	5	4	5	4	
教務課	基幹システムの支援、観点別評価の検証、未来を見据えた学科の検討を行う。	基幹システムの周知とスムーズな運用を計画した。	4	4.0	学年進行のため、引き続き修正と運用を提案していく。	3	4	4	4	4	5	4	4.0
		観点別評価に伴い内規とシステムの変更を図った。	4		変更の検証と各教科の取り組みの比較を行う。	4	4	4	4	5	4		
理数科	進学指導の体系化、アドバンスコースのプログラム再編、未来を見据えた学科の検討を行う。	従来の取り組みを活かしつつ、生徒の実態に応じたプログラムへの見直しを進めている。	4	4.0	スタディサプリなど外部のプログラムを有効に活用した新しいシステムを検討する。	4	4	4	5	4	5	4	4.3
		魅力ある理数科の為に現状を検証し、新たな特色作りを検討している。	4		思考力・判断力を向上させる取り組みを研究し、理数教育に取り込む。	4	4	4	5	4	5	4	
国際C科	Global教育の見直しを図り、コミュニケーション能力向上の為に具体的方策や、未来を見据えた学科の検討を行う。	社会・世界に目を向けさせる授業・諸活動を工夫して展開する。	4	4.0	地元「静岡」の発展を教科横断的な取り組みで考えさせたい。	4	4	4	4	4	5	4	4.1
		国際C科としてのコミュニケーション能力の向上に向けて、さらに効果的かつ魅力的な取り組みを研究する。	4		他校にはない国際C科の魅力を再構築する。	4	4	4	4	5	4		
普通科	法人内各学校の魅力の発信と進学増加を図り、未来を見据えた普通科の魅力再構築の検討を行う。	課外活動を通して主体的に取り組む態度を育てる。	4	4.0	様々な活動を展開し、さらには地域探究クラブの活動を試行する。	4	4	4	4	4	5	4	4.1
		高・大一貫コースを高大連携プログラムに切り替えることを検討する。	4		大学との検討を継続し、具体的なプログラム作成の検討を行う。	4	4	4	4	5	4		

教科	国語	新学習指導要領への移行と観点別評価の導入を行う。	「現代の国語」「言語文化」を研究し、3観点の評価法を検討し取り入れた。	4	4.0	「論国語」「文学国語」「国語表現」「古典探究」を研究する。	4	4	4	5	4	5	4	4.3
		読解力を伸ばす。	単元によってグループ活動など授業形態を工夫し、アクティブラーニングを実践した。	4		多くの先行事例を取り入れていく。	4	4	4	5	4	5	4	
	地公	新学習指導要領への移行と観点別評価の導入を行う。	「歴史総合」「公共」を研究し、3観点の評価法を検討し取り入れた。	4	4.0	「地理総合」「世界史探究」「日本史探究」を研究する。	4	4	4	5	4	5	4	4.3
		ICT教育を研究する。	映像やパワーポイントを活かした授業を実践し、より効果的な授業を研究した。	4		情報を教科内で共有し積み上げていく。	4	4	4	5	4	5	4	
	数学	新学習指導要領への移行と観点別評価の導入を行う。	「数学Ⅰ」「数学A」「理数数学Ⅰ」を研究し、3観点の評価法を検討し取り入れた。	4	4.0	「数学Ⅱ」「数学B」「理数数学Ⅱ」「理数数学特論」を研究する。	4	4	4	5	4	5	4	4.3
		成績上位層を広げる。	習熟度別授業や個別対応を主とした対応を行った。	4		問題を読み取るトレーニングを多く取り入れ、数学の基礎力向上を図る。	4	4	4	5	4	5	4	
	理科	観点別評価の導入を行う。	3観点の評価法を検討し取り入れた。	4	4.0	(基礎なしの)「物理」「科学」「生物」を研究する。	4	4	4	5	4	5	4	4.3
		基礎学力の定着を目指す。	単元ごとの振り返り小テストや、書き込み式問題集などを用いて学力の定着を図った。	4		生活との関わりを考えながら問題を解くことで、生きた理科力を育む。	4	4	4	5	4	5	4	
	保体	主体的に取り組む姿勢を育てる。	授業の準備や片付けを生徒が主体的に行うように促し、体育祭等の学校行事へ繋げた。	4	4.0	体育祭や新体力テストなどの行事においても生徒主体に進める。	4	4	4	5	4	5	4	4.3
		健康で協力的な態度を育てる。	生涯に渡りスポーツに関心が持てるよう、楽しく、仲間を大切にチームプレーも意識させた。	4		個人と個人、個人と社会の接点や役割を考え、スポーツの役割を多面的に理解する。	4	4	4	5	4	5	4	
	美術	思考力・表現力・判断力を発揮する機会を提供する。	生徒一人ひとりにその場でアドバイスしながら、疑問を聞く等指導が一方的にならないようにした。	4	4.0	常に生徒を認め、褒めることに心掛ける。	4	4	4	5	4	5	4	4.3
		健康で豊かな心を育てる。	型にはまらない独創的なアイデアを考えさせ、形にさせた。	4		コンテスト等への出展を視野に、生徒の多様性を伸ばす機会を増やす。	4	4	4	5	4	5	4	
	英語	新学習指導要領への移行と観点別評価の導入を行う。	「英語コミュニケーションⅠ」「科学英語Ⅰ」「総合英語」を研究し、3観点の評価法を検討し取り入れた。	4	4.0	「英語コミュニケーションⅡ」「論理・表現Ⅰ」「英語理解」「英語表現」を研究する。	4	4	4	5	4	5	4	4.3
		英検合格を支援する。	4技能を伸ばしながら級別に個別指導を丁寧継続して行った。	4		HR、放課後等の時間を有効に活用する。	4	4	4	5	4	5	4	
	家庭	新学習指導要領への移行と観点別評価の導入を行う。	「家庭基礎」を研究し、3観点の評価法を検討し取り入れた。	4	4.0	1年生として家庭科を学ぶ意義について理解する為、働きかけを更に工夫する。	4	4	4	5	4	5	4	4.3
		健康で社会的な姿勢を育てる。	成人18歳を意識しながら常に社会生活との関わりを考えさせた。	4		単元ごとの狙いが、社会に繋がるイメージを作れるよう意識しながら授業を展開する。	4	4	4	5	4	5	4	
情報	新科目を研究するとともに講座の対策を検討する。	シラバスを作成し、教材を選択した。共通テストの情報を分析し対応を検討した。	4	4.0	「情報Ⅰ」を研究する。	4	4	4	5	4	5	4	4.3	
創意実践科	プログラムの検証を行う。	振り返りと修正を繰り返して行った。	4	4.0	テキスト化する。	4	4	4	5	4	5	4	4.3	
	発表を計画・指示する。	発表会を全教員で実践し、生徒が主体的に参加してプレゼン・質疑応答につなげることが出来た。	4		生徒にあった発表スキルをマニュアル化する。	4	4	4	5	4	5	4		
指導部	教育活動の成果が直接現れる部署であるという自覚を強く持って校務にあたる。学力、社会性、交通安全の意識、体力健康、規範意識を育む。	新課程への移行を受けた共通テストの特徴を進学指導に落とし込んだ。 法人内各校へ意欲と目標が高い生徒を送り出す。	4	4.0	データやグラフを読み取る能力といった新課程の傾向を汲んだ進学指導をする。 引き続き法人内各校との連携を強める。	3	5	4	5	4	5	4	4.3	
進学指導課	1 国公立大学・難関私立大学合格者数の増加 2 新課程に対応した進学講座や個別指導の実施 3 静岡理科大学との連携の強化	個別指導や課題研究等の取り組みを活かした進路指導を工夫し、総合型選抜に生かした。 静岡理科大学の比較優位性を生徒保護者に具体的に提示した。	3	3.0	全国各地の特徴的な研究をしている国公立大学に主体的な意欲を抱いて進学する生徒を更に増やす。 難化する静岡理科大学へ50名超の合格者を輩出できるように指導を継続する。	3	5	4	5	4	5	4	4.2	
	1進路に主体的・意欲的に向かう生徒を育てる ① 基本的な生活習慣の確立 ② 基本的学力の充実 ③ 社会的ルール理解 2 キャリアパートナーシップの見直し	より生徒の希望に合った進路先を探すため、県外企業も含めてデータを開示した。 長く良好な関係性を築いてきた地元企業や卒業生が関わる企業との連携を活かした。	3	3.0	生徒の希望に寄り添いながら、景況感の変動による就職希望者の増加に対応する。 地元商工会議所との連携をさらに強めていく。	3	4	4	5	4	5	4	4.1	
生徒指導課	1 本校生徒としての自覚責任誇りを持たせる 2 学習環境を整える 3 交通指導の徹底を図る 4 地域貢献に努める 5 職員全体で連携した生徒指導を行う 6 校則の見直しを行う	生徒心得の文言を見直すとともに、適切な説明や根拠を加え、時代の変化に対応した心得を検討した。 LGBTQに代表される多様化の流れを注視した生徒指導をした。	3	3.0	若手教員を中心に生徒会と話し合いを重ねて変革していく。 文科省「生徒指導提要」の改定に伴い、教職員の意識改革を促す。	3	4	4	5	4	5	3	4.0	
保健体育課	1 体育行事を通して生徒の責任感を養う 2 運動部の活動の活性化を図る 3 生徒が健康の保持に努めるよう指導する 4 感染予防対策を継続する	感染対策を主たる目的として中高を分けた体育祭を実施した。 部活指導にオンライン (teams) を活用し、部内のコミュニケーションを活発化させた。	4	4.0	特に中学校単独で実施した体育大会によって中学生の主体性が育成できたので、継続して実施する。 特に男子バレー部や男子ソフトボール部などが往年の活躍に届きつつあるので指導を継続する。	2	4	4	5	4	5	4	4.0	
研究開発部	サイエンス・イノベーションによって地域の未来を創る人材を育成する。	全校、全学科、全学年で課題研究の実施および指導を行った。 課題研究の成果をもとに地域的・国際的な交流を実施した。 科学英語を1~3年生全員で実施し、SKYSEF等、オンラインを活用して国際連携教育を実施した。英語での応答が上達した。 静岡県児童生徒研究発表会を過去最大規模で実施した。	4	4.0	課題研究の評価法、教材を普遍化する。課題研究が自律的に運営される体制を確立する。 科学英語の実施方法を改善、SKYSEF等、国際連携教育を継続する。 地域との連携教育を深化する。	5	4	4	5	4	5	3	4.3	

創意実践課 (SSH・課題研究)	第4年次課題研究プログラム普及版開発の検証と改善・恒常的な国内外連携の活性化に重点を置く。	第3期SSH指定4年目として、全校、全教科での運営体制の改善を行った。	4	4.0	全校、全教科、新課程での運営体制の改善を継続する。	4	4	4	5	4	5	3	4.1
		課題研究を用いた人材育成プログラムを改善し、様々な対象や場で活用した。			課題研究を用いて、人材育成の裾野を広げ、トップを育成する。								
国際連携教育推進課	海外語学研修、海外姉妹校受入れのプログラムの改善を行い、恒久的な国際交流プログラムを構築する。	訪問や招聘ができない状況下でも本校で恒常的な国際交流が実践できる事例を増加させた。	4	4.0	オンライン交流と対面交流のハイブリッド交流プログラムを計画する。	4	4	4	4	4	5	4	4.1
		語学研修の改善を検討した。			アフターコロナにおける留学、語学研修の計画の立案を行う。								
中学校	目標生徒数を獲得する。 教師力を高める。	小学生対象の体験教室や研究発表会をレベルアップし、募集活動につなげて定員を充足した。	4	4.0	定員60名に対して、112名の受検者、72名の入学者を獲得することができたので継続留する。	5	4	4	5	4	5	4	4.4
		ディープアクティブラーニングの専門家である大学教授を呼び、授業のチェックや検討会をしてもらい、教師のスキルアップに努めた。			授業や生徒指導に関する研修会を定期的に開き、より一層教師力を高めていきたい。								
中学1年部	丁寧な初期指導により、生活面・学習面における基礎を身につけさせ、安心して居場所のある学校生活を送らせる。	人・物・心を大切にできる生徒の育成に努めた。 諸活動を通して自ら学ぶ姿勢の育成を行った。	4	4.0	基本的な生活習慣が身につく、きまりや期限を守れる生徒を多く育てられた。次年度は集団の向上を牽引するリーダーの育成に注力し、学年全体の質向上を目指したい。引き続き「おかげさま」を合言葉に、節目ごとに感謝の念に気づかせ、心豊かな成長も促したい。	4	4	4	4	4	5	4	4.1
中学2年部	「基礎・基本の確実な定着」を意識し、率先して課題と向き合う姿勢を身に付けるとともに、科学的なものの考え方や国際感覚を養い、様々な課題・問題に対してプラス思考とチームワークで解決を図る人材を育成する。	学年目標「絆へ認め合い、励まし合う仲間」をホームルームや諸活動を通じて呼び掛け、昨年度以上に「仲間」や「集団」を意識して生活することを実践した。 各教科の課題や提出物、「フォーサイト」「自学ノート」等の毎日取り組むべきものについて、クラスや学年全体で話し合い呼び掛け合う機会を設け、意識付けの強化を図った。	4	4.0	コロナ感染拡大防止対策を継続しながら、本校の教育指針に沿った授業・諸活動を展開した。また、来年度における進路選択や将来的な職業選択に向けた意識付けの一環として、大井川鉄道関係者による「キャリア教育研修」等を実践したことで、生徒個々が自ら考え行動に移す力が伴ってきたことを実感した。次年度に向けて、そうした力を基に、学校を牽引する立場として「下級生の良き手本」となる最上級生に向けて指導助言を継続する。	4	4	4	5	4	5	4	4.3
中学3年部	義務教育最終学年として3年間の取り組みを振り返り、自分自身の生活と学習のスタイルを確立する。1年次・2年次に得た個々の【学び】をつなぎ合わせ、多くの視点から的確に判断することとともに新しい【価値（考え方・行動など）】を創造できる生徒の育成を目指す。	中学生活の最終段階として、随所で自身の歩みを振り返る機会を創出し、得意を魅力に、不得手を成長へのきっかけにつなげ、未来の姿を意識しながら計画的に物事を進める経験を積みながら、自身の「自信」へとつなげていく指導を行った。 答えが容易に出ない問いに向き合い、自分自身の経験と照らし合わせながら、自分なりの考え（答え）を持たせ、行動の意味を意識させた。また、それを相手と伝え合いながら、自分の考えを見つめ直し、新しい価値に出会う場を設定した。	4	4.0	本年度は、多角的な視点を獲得するための機会を創り、常に義務教育の修了を意識させながら、自身の取り組み方や振る舞いを振り返る場を随所に創出でき、自分自身の力でより善く改善していける方法を粘り強く求めていく姿勢を育むことができた。また、進路の研究や選択を通して、未来を見据えて計画を立て、堅実に歩みを進める経験を積むことができた。	4	4	4	5	4	5	4	4.3
高校1年部	人生の土台作りとして、基本的な生活習慣を確立する。（学習時間の定着、出欠席、身だしなみを整える）	定期試験に向け、学習計画を立て、実行させた。課題未提出者は放課後に粘り強く指導を行い、課題が完成できた。また積極的に課外活動に参加することで、社会性を育んだ。 学年で服装特別指導を行い、ルールを守ることを意識を持たせた。	4	4.0	成績が伸び悩む生徒が目標を持つために、自ら取り組もうとする姿勢を育む。また自学が難しい生徒は、放課後の時間を有効活用し、自習室を作る。今後も課外活動へ積極的に参加して、具体的な将来像を形成できるようにしたい。生徒指導も引き続き継続する。	4	4	4	5	4	5	4	4.3
高校2年部	基本的な生活習慣の確立を継続し、授業に臨む姿勢と家庭学習への取り組みを、具体的な進路目標に向けて指導助言し、成長を促す。主体性を持って行動する。他者と協働して社会性を高める。	服装検査や授業巡視を定期的に行い、基本的な部分での意識付けを行った。学校行事では担任が生徒を積極的に誘導し、学級活動の充実を図り、クラスに一体感を持たせた。 教員間で学習活動に関する意見交換を行い、情報の共有を図り、進路指導の活性化を図り、指導助言に生かした。	4	4.0	学習では進路決定に向け、自分の力を認識し、高い目標を設定して取り組む。協調性や社会性を育み、周囲と良好な人間関係を構築できる人材を育成する。 学年部では進路決定に向け、生徒がこれまで積み上げてきた力を更に伸ばし、その力を試験で発揮できるように環境を構築し、適切な指導を展開する。	4	4	4	5	4	5	4	4.3
高校3年部	進路希望を実現する。 社会性と主体性を高める。	推薦型・総合型選抜を有効利用することも視野に入れた指導を展開した。理工科大学、法人内専門学校の有効な情報を定期的に発信することにより、連携が深められた。 学校行事を活用し、生徒個々が主体的に活動する環境を作り出し、達成感や成功体験を取められるよう支援することが出来た。	4	4.0	全ての生徒において第一志望校の合格や就職先からの内定を勝ち得たわけではないが、コロナ禍での3年間、諦めず粘り強く取り組む姿勢を身に付けさせることができた。共通テストの結果を踏まえれば、まだまだ、学力を伸ばせる余地はあったものの、一般入試の前に32名の国公立大学合格者（目標50名）を出すことができた。これらのノウハウは次年度へ繋げていく。	4	4	4	5	4	5	4	4.3
			平均	3.9									4.2

学校関係者評価委員のコメント

○コロナ禍ではありましたが、体育祭に3年生の保護者の来場を許可してもらえ有難うございました。

○卒業式において市民文化会館活用など新しい形で実施できたのは良かったと思います。

○高校の修学旅行の海外渡航が制限されている中で、国内で研修プログラムを意識した内容の修学旅行が実現されて良かったです。

○スクールバスの件では、様々な課題を乗り越えて時間はかかりましたが解決されたこと、称賛に値します。

○来年度は、いよいよコロナ禍解禁の機運が高まり、世の中が動き出すと思います。北高・北中らしさを前面に出しながら更なる飛躍の年になることを期待します。

○コロナ禍でも保護者が参加（見学）出来る行事を作っていただいたことに感謝しています。

○卒業式を学年全員で行えるようにして下さったことに感謝しています。

○進路指導において、一人ひとりの希望や学力に応じて最後まで個別指導していただき感謝しています。

○コロナ禍で、体調の不安等がある中、teamsで直ぐに担任に連絡が取れるので子供達が安心できていました。

○コロナ禍での学校生活ご苦労様でした。同窓会として、学校の交流が少しでも戻ることを願っています。

○静北が地域の皆様に愛され期待される学校である為に、更に開かれた学校作りを目指していただきたいです。

○コロナ禍でスタートした学年でしたが、今年度は体育祭、修学旅行、スキー研修、そして最後に素敵な卒業式を行っていただきました。先生方はコロナにより例年通りに計画が進まずご苦労されたことと思います。子供達にとって沢山の経験と思い出ができましたことは、先生方のお陰と感謝しております。ありがとうございました。

○大学共通テストの実施など、入試改革3年目を迎えた中で、一般選抜だけでなく、学校推薦型、総合型選抜などの生徒の適正に合わせたきめ細かな進学指導の成果が現れています。特に、国公立大学、私立大学の合格者数が過去3年間で最高の結果になったこと、超難関大学の浜松医科大学の医学部に合格者を出したのは特筆すべきです。

○三期目を迎えたSSH活動では、今年度は高校生全学年・全生徒が課題研究に取り組んだと聞いています。学校全体で主体的な学びを養う姿勢が、着実に生徒の学習意欲の向上につながっているのではないのでしょうか。